

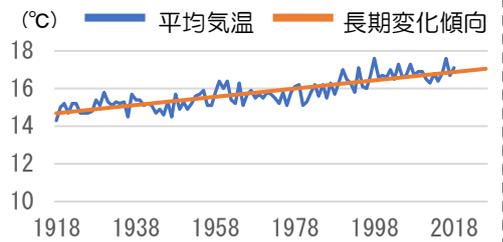
松山市環境モデル都市行動計画 <概要版>

●地球温暖化って？～原因と影響～

地球温暖化は、私たちの生活や事業活動で出る二酸化炭素などの温室効果ガスの増加が原因といわれていて、平均気温の上昇など様々な問題を引き起こします。

松山市の平均気温も、100年で約2.2℃上昇しています。

松山市の平均気温の変化



■地球温暖化が進むことによる影響

(出典)環境省「地球温暖化パネル」



海面上昇



健康被害



異常気象



食料不足



種の絶滅

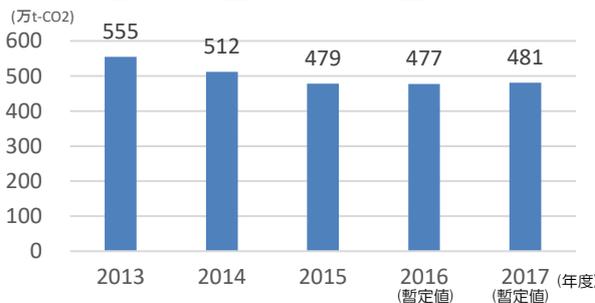
●地球温暖化とどう向き合うの？～世界と国の動き～

2015年11月にフランス・パリで開かれたCOP21で、気候変動を防ぐための国際的な枠組みである「パリ協定」が採択されました。「パリ協定」では、『地球の平均気温の上昇を2℃未満に保ち、1.5℃に抑える努力』が地球上の全ての国に求められ、今世紀後半には温室効果ガスの排出「実質ゼロ」を目指すとしています。

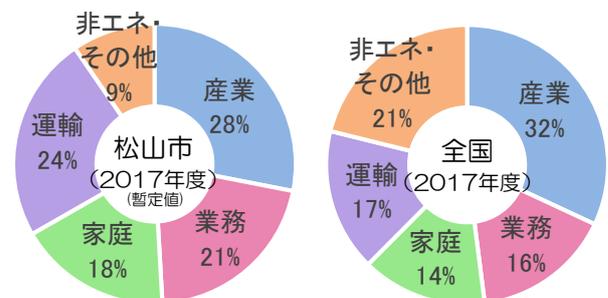
日本でも、2050年までに、2013年度と比べ温室効果ガスを80%削減するとしています。

●松山市の温室効果ガスの現状は？

■松山市の温室効果ガス排出量



■部門別温室効果ガス割合(2017年度)



- 市内からは年間約481万t-CO₂の温室効果ガスが排出されています。
- 松山市は全国と比べて、観光業や卸売・小売業などの第三次産業が盛んなので、温室効果ガス排出量も製造業等からの排出である「産業部門」の割合が小さく、事業所から出る「業務部門」や、住まいから出る「家庭部門」の割合が大きくなっています。また、自動車から出る「運輸部門」の割合も多いのが特徴です。



オフィスや家庭での取組や、環境にやさしい移動手段を選ぶことがカギになってくるんだね。まずは一人ひとりが地球温暖化を正しく理解して、行動に移すことが大切だよ。

一方で、松山市は雨が少なく日照条件もいいことから、太陽光発電に向いている地域でもあるんだ。

これからは、太陽光発電などの再生可能エネルギーを「創る・貯める・賢く使う」ことや、災害にも強い自立・分散型のエネルギーシステムを広げることで、**みんなが安心して住み続けられる「スマートシティ」**を目指していくことが重要だよ。



●計画の目標

松山市は、深刻化する温暖化の影響や、温暖化を防ぐための国際的な枠組み「パリ協定」の採択を踏まえ、「ゼロカーボンシティ まつやま ～誰もが安心して住み続けられるスマートシティ～」を基本理念に、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロの社会を目指します。実現に向けて、国の目標を上回る温室効果ガスの削減目標を、以下のとおり掲げます。

ゼロカーボンシティ まつやま ～誰もが安心して住み続けられるスマートシティ～	
計画期間	2020 年度～2023 年度
基準年度	2013 年度
中期目標	2030 年度 までに温室効果ガスの排出量 27% (1,497,155t-CO ₂)削減
長期目標	2050 年 までに 温室効果ガスの排出実質ゼロ社会 を目指す

●目標達成に向けた5つの取組方針

環境に配慮した暮らしと
事業活動の推進



COOL CHOICE の推進



企業訪問による省エネ促進

未来に向けた
連携と発信



環境教育の充実

国内外への情報発信、
情報共有

クリーンエネルギーの
利活用



中島スマート
コミュニティの実証



太陽光発電システム等
の普及

誰もが安心して
住み続けられる
スマートシティ
松山の実現

循環型社会の推進



塩類リサイクルシステム
の構築（エコ次亜事業）



ごみ減量に向けた
出張講座

人と環境にやさしい
まちづくり



緑のカーテン普及事業



EV 普及による防災力強化

●取組内容

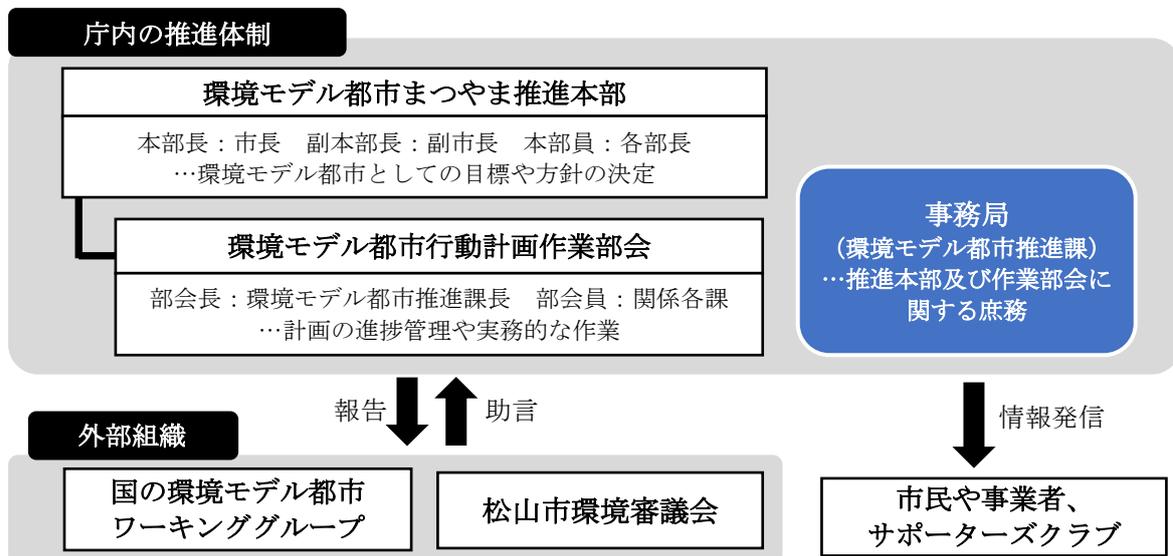
取組方針に沿った具体的な内容と、その中でも重点的に取り組む10の「重点取組」を以下のとおり設定します。

取組方針（削減見込）	取組内容
環境に配慮した暮らしと事業活動の推進	企業訪問による省エネ機器・省エネ行動の促進【重点】
	「松山グリーン電力証書」の活用
	市有施設での省エネと再エネ普及の推進（再エネ 100 RE Action）
	ZEH や HEMS の推進
	COOL CHOICE の推進【重点】
クリーンエネルギーの利活用	太陽光発電システムの普及【重点】
	太陽熱利用システムの普及
	蓄電池システムの普及【重点】
	燃料電池等高効率給湯器の普及
	市有施設での自立・分散型エネルギーシステムの構築
	スマートシティの実証と啓発【重点】
	水素等 新エネルギー利活用の検討
人と環境にやさしいまちづくり	電気自動車を活用した防災力強化【重点】
	歩いて暮らせるまちづくりの推進【重点】
	公共交通や自転車などの利用促進
	バイオディーゼル燃料の利用促進
	豊かな自然環境の保全
	環境に配慮した公共事業実施の徹底
循環型社会の推進	プラスチックスマートの推進
	食品ロス削減に向けた取組
	ごみの削減に向けた市民の意識醸成【重点】
	ごみの減量・再資源化に向けた仕組みの構築
	下水処理施設のエネルギー回収
	ごみ処理施設のエネルギー回収
	節水及び水資源の有効利用と保全
未来に向けた連携と発信	国内外の自治体との連携や情報共有
	地域のステークホルダーとの連携【重点】
	環境教育の充実【重点】

●計画の推進

■推進体制

庁内の推進体制として、首長をトップに「環境モデル都市まつやま推進本部」を設置し、環境モデル都市としての目標・方針の決定を行うとともに、関係部署で構成する「環境モデル都市行動計画作業部会」で実務的な作業や進捗管理を行うことで、全庁一丸で取組を進めます。



(※) サポーターズクラブ

関係企業社員や学識経験者、学生などで構成され、環境モデル都市まつやまの取組の情報発信や各種セミナーの開催通知などの情報共有を行っています。

🔍 松山市 サポーターズクラブ

■進行管理

※PDCA…Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(見直し)

推進体制の下、「計画全体」と「各取組」のPDCAを毎年度実施することで計画の実行性を高めます。また、市域の温室効果ガス排出量や基本方針ごとに設定する活動指標等については毎年度公表します。

■多様なステークホルダーとの連携体制～松山市 SDGs 推進協議会～

2014年10月に発足した「環境モデル都市まつやま推進体制」について、これまでの取組を強化し、多様なステークホルダーの参画・連携を積極的なものとするため、「松山市 SDGs 推進協議会」として再構築します。

会員同士の情報共有や連携を行う「情報・人的交流のプラットフォーム」として発展させ、持続可能な脱炭素社会の実現を含むSDGs(持続可能な開発目標)の達成と、より一層の地方創生の推進を目指します。

松山市 SDGs 推進協議会 HP <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/SDGs/matsu-torikumi/sdgssuisinkyougikai.html>